



2012

3

No.476



理念

130年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療

患者の人権と
意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・
予防医療を中心に
医療機能の
充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関
との連携を行い
安心できる医療の
展開を行います

社会貢献

災害医療派遣・
医療情報公開・
医療ボランティアの
活動を行います

医療人育成

医療に携わる
喜びが持てる
医療人の育成を
行います

平成 23 年度海外医療事情・社会保険制度視察調査

2月29日から10日間、看護局の渡辺科長と平成23年度海外医療事情・社会保険制度視察調査に参加してきました。以下は、今回の視察・調査で訪問したスウェーデンとイギリスでの社会保険関連の事務所と病院の簡単な説明です。

- ① 患者助言委員会 (The Patients' Advisory Committee) …病院と患者、国の間に立ち医療への苦情を受けつける機関、社会庁の管轄で各県ごとに設置されており、市民からの苦情・批判・提案を他の機関に報告することによって、医療サービスの改善を図ることを目的とした委員会。
- ② ソフィア・ヘム病院…32床のベット、7室の手術室に250人のDrと200人のNs、総勢1,000名のスタッフが働く病院。32床？Dr250人？と思いますが、専門医を他病院へ貸し出す派遣業と登録Drが個人で手術を請負い、手術室とスタッフを病院が貸し出す賃借・派遣型の病院で、予定患者だけを受入れ、入院日数短縮のため救急などは受けず、ロス無く手術室・病床を回し運営している王室系統の病院。
- ③ ナショナル・インスティテュート・フォー・ヘルス・アンド・クリニカ (NICE) …エビデンスに基づいて医療サービスの標準化を行い、どの地域でも同じ水準の質の高い医療サービスを受けられることを目的とし、専門家と共に患者・市民が参画することで、患者が期待する医療、治療成果、情報など、患者・市民の視点でのガイドラインの作成をする。また、新薬・新たな医療技術などについて、臨床的効果と経済性評価 (費用対効果) の両面から評価を行い、NHS (国営医療制度) の給付範囲に加えるかどうかを勧告する役割も持つ機関。
- ④ チェルシー・アンド・ウエストミンスター病院…NHS (国営医療制度) の病院であるが裁量の範囲がより広く認められたファンデーション・トラスト病院。剰余金の保持が可能な公的独立採算制の病院。NHSの病院は入院患者調査スコアがウェブ上で公開され誰でも閲覧することができる。
- ⑤ ヘルス・プロフェッションズ・カウンシル (HPC) …患者市民を守ることを目的とした、医療専門家に対する



筆者：後列右から2番目

3月6日 チェルシー・アンド・ウエストミンスター病院にて

規制団体。NHSから独立し、栄養士・作業療法士・放射線技師など15医療従事職種の団体。HPCに登録しないと職種名を名乗れないことになっている。職種ごとの教育プログラムの承認などを行っている。

医療の現場として両国とも共通するのは、フリーアクセスで病院を受診できる日本とは異なり、救急でない限り病院 (専門医) 受診ができない仕組みになっています。イギリスで言いますと初期診療はGP (家庭医・一般医) が担当し、GPを経由しないと専門医での診療ができない仕組みとなっており、そのGPへの受診も現地在住のコーディネーターは、電話でGPに連絡しても風邪や胃腸炎などは薬局で購入する薬を指定され、それを服用して寝て下さいで済まされるケースが一般的とのことでした。両国における医療費の財源は大半に税金が投入され、患者が支払う診療費はほとんど掛からない点においては、税金での高負担・高福祉であると言えますが受診抑制の制度も働いています。両国とも、ほとんどの病院が公的病院のため、サービスや質の向上、医療資源の抑制の役割を患者助言委員会・NICEが担っていると思われます。

最後に我が国の国民皆保険で高齢者医療やフリーアクセスの現状と医療費財源問題、医療の質・サービスといった点について大変参考となる視察であり、私自身のキャリアアップに繋がる研修でありました。

医事課 木下 学

熊本大学消化器外科 臨地実習 NO.2

去る2月6日から10日まで、私は、熊本大学医学部消化器外科の特別臨地実習生として、人吉総合病院で実習をさせていただきました。実習中は、外科の診療や手術を中心に見学をしました。5日間という短い期間ではありましたが、先生方やスタッフの方々のご指導のおかげで、とても密度の濃い実習となりました。

実習を通して強く感じたことは、人吉総合病院の先生方は患者さんとの距離がとても近く、信頼関係を上手に構築されているということでした。時折、



球磨弁を交えながら、患者さんとコミュニケーションをとり、診療をしていく先生方の姿が印象的で、普段の大学病院の実習とはまた違った、温

かさのある医療をみせていただいたように思います。“医は仁術”ということを改めて教えていただきました。

また、先生方には病院での実習に加えて、夜は食事に連れていってくださり、色々なお話を聞かせてくださいました。昨年の東北大地震の際に現地で支援活動をされた時のことや、研修医時代のことなど、興味深いお話ばかりでした。今後、医師として人生を歩んでいく上で参考にさせていただきたいことが沢山ありました。

私は人吉出身なのでいつかは人吉に戻り、人吉の医療に貢献したいと考えていましたが、今回の実習でその気持ちがさらに強くなりました。今はまだまだ未熟な医学生ですが、1日でも早く医師になり、成長して故郷に帰ってこられるように精進したいと思います。5日間、大変お世話になりました。ありがとうございました。

熊本大学 医学部5年 田中 顕道

南海病院見学

3月3日(土) 大分県佐伯市の健康保険南海病院にて病院見学与親善試合が行われました。

病院見学の感想を以下に掲載いたします。

.....
まだまだ寒さが身にしみる3月3日。総合病院を出発したバスは遠路はるばる大分県佐伯市にやってきました。佐伯は海の近くにある、どこかノスタルジックな香りが漂う街。どこことなく人吉に似た雰囲気を感じ出す。

片田舎の中学校。隣のグラウンドでは子供らが声援に興奮している。ソフトボール会場では、威勢の



良い掛け声が冷えた空気によく響く。フットサルは女性が多い、もちろん体育館に長居する。

試合後に南海病院を見学へ。内装リフォームを繰り返したという綺麗な院内、一面ガラス張りのラウンジからはせせらぐ小



川と朱色の鳥居。うーん、洒落てる。病院の説明を聞きながら、壁一面に並べられた絵画を通して、この病院が歩んできた歴史を少しだけ覗き見る。

夜は佐伯の海の幸。刺身、しゃぶしゃぶ。とても美味しい。お酒もすすみ、いつの間にか自分はほろ酔い気分。自分は誰かに迷惑かけてないでしょうか？翌朝ホテルの一室から眺めた景色は、海沿いに工場が立ち並び、遠くには佐伯湾。南海病院の方々の温かいおもてなしに感謝。

熊本大学医学部附属病院 臨床研修医 門久 政司

救急功労表彰

3月2日(金)下川恭弘副院長が下球磨消防組合より、救急功労として表彰を受けられました。当院では救急救命士の就業前実習・認定取得のための実習受け入れ、心肺停止症例や問題のある症例についての「事後検証委員会」の開催など、救急体制の質の向上に努めています。その功績が認められ、当院救急委員長である下川副院長が表彰されました。



—下川恭弘副院長コメント—

救急車で患者を搬送するだけでは、救命率が下がっ

てしまいます。そのため、救急救命士が医師から指示を受け、気管内挿管などの医療行為を行うことが認められており、その役割は拡大しています。これらの救急隊の活動の質はきちんと管理されなければなりません(メディカルコントロール)。そのために、当院では実習や事後検証などに力をいれています。今後も救急救命士の育成に尽力したいと思います。

当院はこれからも地域の救急医療に貢献できるように努めていきたいと思っています。

医療福祉連携室 畑田 惣一郎

ピンクリボン in ひとよし春風マラソン

今年で4回目の参加になります「ひとよし春風マラソン」にて「ピンクリボン運動」を行ってきました。メンバーは、予防医療センターから保健師の吉村、横谷、愛瀬、検査技師の御手洗、諸見が参加しました。

当日はアピールもかねて御手洗検査技師が、10kmと3kmを、諸見技師が5kmのマラソンを走りました。また、北海道からは3回目の参加となります、中村一登さんが、ボランティアランナー



筆者：下段右端

としてピンクリボンバッジを付けてハーフ(21km)のマラソンを走りました。飛び入りで、親子参加の当院職員には急遽、

ピンクリボンTシャツを着て走っていただきました。(ご協力ありがとうございました。)

人吉市役所のご好意により、人吉ふるさと歴史の広場にブースを設け、乳房触診モデルを使い触診の仕方やパネル展示、乳がん検診の必要性を説明しました。

協力には、「株式会社エナ」さん(あんしん生命)の参加もあり、グッズのプレゼントやあんしんせいめいくんマスコットによる呼び込みもあり、たくさんの方に来場していただきました。中には親子連れの姿もみられました。

この活動が、乳がんの自己触診や乳がん検診の啓発につながるようお願い、今後も地道に活動を行っていきたくと思います。

予防医療センター 愛瀬 友見
(ピンクリボン in 人吉実行委員会)

2/19 人吉市で毎年恒例の春風マラソンが開催されました。同日に熊本市で熊本城マラソンが開催されるということもあり、参加人数が心配されましたが、昨年を上回る参加となりました。そして当院からもそれぞれのコースで多くの職員が参加しました。

私は、人吉市女性消防隊として初めて参加しました。以前から参加を考えていたのですが、なかなか自信が持てず、敬遠していました。今回3kmという短いコースで参加しましたが、日頃の(運動していない)成果が出て、その道のりは長く険しいものでした。しかし、ゴールできた時の爽快感と達成感は何事にもかえがたく、また参加してみようかという気持ちさえ生まれていました。

作業服を着用し、沿道の方へ火災予防啓発ティッ

シュを配りながら走りましたが、たくさんの応援をいただき、自分のペースではありましたが、最後まで走ることができました。そして終わった後はおしぼりのサービスや赤飯、豚汁、おしるこ、温泉無料券が配られ、走った後も心も体も温まりました。

ゲストとして間寛平さん等の参加もあり、みなさん思い思いの格好やコースを走破されており、大変盛り上がった大会ではなかったかと思います。身近にこのような場があるということはとてもありがたいことだと思います。今後も健康のため、色々な宣伝の場として参加出来たらと思います。



医療福祉連携室 金栗 由佳

新病院フロア構想

1階に拡充した救急部門・画像診断部門を設け、災害時のトリアージスペースなど、災害拠点病院、救急病院としての機能を充実させます。5階から9階まではプライバシーに配慮した1床室と2床室構成の病棟が配置されます。屋上にはヘリポートも予定しています。

新病院(本館)各階の構想は次のとおりです。

現在建設中の本館の他に、健康管理センター棟とライナック棟および研修棟が残ります。健康管理センター棟・ライナック棟は現在の機能を残し、研修棟に心臓リハビリ室・リハビリテーションセンターが移って新病院完成予定です。

情報企画課 那須 智子

屋上	ヘリポート
9階	病棟
8階	病棟
7階	病棟
6階	病棟
5階	病棟
4階	庶務課 経理課 医事課 情報企画課 電話交換 診療情報管理室 医療福祉連携室 治験センター 医療安全管理室 院内感染対策室 訪問看護室 管理
3階	大会議室 病理検査部 薬剤部 栄養課(厨房) 寝具
2階	総合受付(再来受付・会計) 外来(内科・外科・整形外科・脳外科・皮膚科・泌尿器科・ 麻酔科) 中央処置室 検査部(生理検査・検体検査)
1階	受付(新患受付) 予約センター 売店(ATM) 画像診断センター(レントゲン・CT・MRI・心カテ・血管 造影室) 救急・時間外受付(救急室) サービスヤード

医師臨床研修 修了Dr あいさつ

平成22年4月より当院にて研修を開始された佐野先生・黒田先生が、今年3月をもって研修を修了されます。2年間の研修を修められるにあたり、挨拶を頂きましたので掲載させていただきます。



平成22年4月から平成24年3月までの2年間にわたり基幹型研修医として過ごさせていただきました。私と佐野先生は当院消化器内科の西村淳先生以来2年間の研修医期間全てを人吉総合病院で研修させていただいたのですが、良くも悪くも手探りでやってきた部分も少なからずあるような2年間でした。

そんな中でも、各診療科の先生方からは生涯忘れ得ないであろう多くの貴重な経験をさせていただき、また、患者さんのために人吉・球磨地区で医療を完結するための気概を目の当たりにすることができました。加えて、コメディカルのスタッフの方々には大変寛容に接していただき、のびのびと「わがまま」に研修をすることができました。患者さんやそのご家族にしても、土地柄なのか優しい方々が多く、たくさんの励ましの言葉をかけていただきました。

学会や勉強会の参加の面でも、2年間を通してどこの研修医よりも質の高い講演を数多く拝聴する機会に恵まれたものと自負しています。

そういった中で、癌診療への関心、手術の根治性に魅かれ、当院の諸先生方のごとく、cureに対する挑戦とcareの充実を飽くことなく追求する医師になるべく、4月からは熊大病院の消化器外科に入局し、外科医としてのキャリアを積んでいく事に致しました。恥ずかしながら高校・大学とやりたいこともなく自分で将来の道を主体的に選択したことがなかった身としては、初めて自分の進路を決定するに至ったことに何よりもこの2年間の意義を感じております。自分がやってみたいと思うことに会えることができ、その気持ちを挫かれることなく過ごさせていただいたことに本当に感謝していますし、社会人・医師としてのキャリアを人吉総合病院でスタートできてとても幸運でした。

ここで培った初心、特に研修生活の中で自分の中に芽生え育ってきたプロフェッショナルリズムを忘れずに仕事を続けたいと思っておりますし、まずはそのことが人吉での2年間の恩に報いる事と思えます。

また、私の立場からすれば、人吉総合病院がますます「研修医を呼べる」良い病院になっていくことを祈っております。

2年間本当にありがとうございました。

健康保険人吉総合病院 臨床研修医 黒田 大介



早いもので医師国家試験を終え、医師としてのスタートを切って2年が経とうとしています。まず、この2年間お世話になった、先生方、看護師さんや技師さん、各スタッフの皆さん、本当に有り難うございました。皆さんの支えがあったからこそ、色々な事を学ぶ機会を得る事が出来まし、ここまで辿り着くことが出来たと思います。

初めは本当にただの学生上がりであり、薬の名前も知らないし、点滴のオーダーも出来ないし、何をすればいいのか全然わからない所からのスタートでした。4月の初めに新任の看護師さん達と採血や点滴の練習を一緒にしたのが懐かしく思います。少しずつ色々な事を覚えて、毎日何か一つずつ出来るようになっておりました。

私は人吉総合病院でしか働いた事がないので、良くも悪くも当院の事しか知らないし、他の病院では研修医がどんな事しているのかというのは話でしか聞いた事がありません。当院の特徴として「研修医が救急初期対応をする」「地域の中核病院であり、あらゆる疾患群が来院し、多くは当地域内で解決する」という事があり、「医者は医者にしかできない仕事をしっかりする」という院長先生の考え方がありました。そのような基盤もあり、多くの先生方のバックアップがある中で、「自分で考えて責任を持って患者さんを診る」という事を、日々充分に身をもって学びました。また、医師の数もスタッフの数もまだまだ多くはない為、患者さんが多くなれば大変な仕事量となる事も多々あり、そのような忙しい環境で鍛えられた反面、時にはゆとりもあって色々な事をしっかり勉強する時間も取る事が出来ました。自分で採血や点滴をしたり、薬剤を取りに行ったり、医師以外のスタッフに普段はして頂いている仕事も自分で進んでする機会もあったので、そういう意味ではあまり隔たりなく多くの仕事も体験できたのではないかと思います。学会発表や研修等にも多く参加させて頂きました。

大きすぎず小さすぎないこの病院だからこそ、本当にいい研修をさせて頂けたと思います。これからは専門領域へと進んで行く事になりますが、当院での研修は大きな財産になっていると思います。皆さん、本当に有り難うございました。

健康保険人吉総合病院 臨床研修医 佐野 直樹

骨髓穿刺勉強会

3月6日(火) 研修医の皆さんを主な対象として骨髓穿刺の勉強会が行われました。穿刺針の利用の仕方や骨髓内投与をする意味を学び、具体的に実践をしてみる勉強会となりました。実践で活かすことができる知識や技術を学ぶ機会になったと思います。今後も研修医の先生方とともに研鑽していけるような勉強会を開催していきます。

救急委員会



倫理特別講演会～リビング・ウィル（尊厳死の宣言書）について

去る2月29日（水）老神会館において倫理特別講演会を開催し、医療関係者142名が参加しました。尊厳ある死と医療の関わり・自宅での看取りについて考えて頂くことを目的としたもので、一般社団法人日本尊厳死協会の松根敦子 副理事長を講師にお迎えし、死の宣言書「リビング・ウィル」についてご講話を頂きました。

「リビング・ウィル」とは、不治且つ末期の傷病となった場合に備えて、元気なうちに延命治療や措置を断ることを意思表示した文書の事です。講話では、リビング・ウィルについてお話された

他、尊厳死をめぐる世界の動き等についても紹介され、「死について考えることは、命の尊厳さについて考えること。家庭や職場、学校などで”本当に生きる”とは何かを考えて欲しい」と呼びかけられました。

この講演会について感想を頂きましたので、以下に掲載させていただきます。



私が21歳の時に、母が胃癌である事を知らされ、横浜から人吉に帰郷しました。すでに母は末期状態。「本人には告知しない」事とし、家族みんなで必死に涙をこらえての看病が始まりました。告知しないままでしたので本人の意思は全く尊重されず、「いつかは良くなる」と希望を持たせていました。ずっと点滴の治療でしたが、ついには点滴も入らなくなり、胃の痛みに苦しみ、嘔吐の繰り返しで体重も30kgと急激に減少していきました。壮絶な1年間の闘病生活を送り母は59歳で他界したのです。母は自分の病気や余命について知らされず「何か言い残す事もあったら、やり残した事もあったら」等と母の死後にはいろんなことを考え「告知しなかった事」に後悔もしました。

今回、尊厳死についての講演を聞き「あの時に、母に癌であることを告げ、母の意思を尊重できていたら、母はどんな人生最後の過ごし方を希望していただろう」と振り返りました。本人の意思を尊重してあげればよかったと、後悔が今も募りません。痛みを和らげ居場所の心地よさがあるなら最高の時間を過ごせる気がします。生きる権利と死ぬ権利とは、こんな状況から思える事でしょうか。誰もが避けられない「死」であり私自信も「どうありたいのか、どこで死にたいのか、どんな死を迎えたいか」重要な事として人生の結末の選択としてしっかり考えたいです。

今だからこそ私に出来るのは、機械に負けない心の看護。これこそが「医療の立場」に通用する

ものだと考えます。病に伏せる患者様に「立場を変えて考える」「心から寄り添う看護」を目標とし、これからも精一杯自分自身の為にも努力したいと思っています。

5階東病棟 三上 加代子



去る、2月29日（水）尊厳死について尊厳死協会の松根敦子副理事長より講演がありました。

人吉地区にも十数名の人が尊厳死協会に加入されており、尊厳死への関心の大きさを知りました。講演の中で松根氏は、ご主人ががんの宣告を受けた際、尊厳死を選択され、闘病中、最期は隣で寝ていたのにわからないくらい静かに息を引き取ったということでした。

闘病生活の中で苦勞をされたという話はなく、ご主人や看取られた家族、共に満足した生活だったように感じました。

末期の傷病になった際、家族に延命治療について選択を委ねられることが多いですが、選択する家族もつらく、本人にとって本当にこの選択で良かったのか悩みがつかないと思います。お互いが、死に対し納得するためには、自分の死に対しどうしたいのか家族としっかり話し合い、同じ価値観を持つことが大切だと思いました。

4階病棟看護師 平富 孝美



笑って健康促進!

第74回 翔幻会開催!

平成二十四年三月開催分の句をご紹介します。どうぞご鑑賞下さい。

川柳句会「翔」平成二十四年三月分

- 好きな子にわざと捕まる鬼ごっこ 章子
- あとひとりガイドが旗をなびかせる 章子
- 白黒でバッチリ目をひくパンダちゃん 章子
- おかしいな鏡はっかかり年をとる 章子
- 向こうよりわが妻らしい冬帽子 章子
- バレンタイン何時もの義理がとどきます カツ子
- バレンタイン傘寿になってもチョコが来る カツ子
- わからないやたらカタカナ多すぎて 地内レイ
- 蠟梅を知らない人が分けてくれ 地内レイ
- 恵方巻きをしっかりと食べて福を呼ぶ 深水和子
- 植木市行って嬉しい春の市 深水和子
- 痛いのは生きてるあかし膝さする口 紺紗
- 胸ゆたか腰ミノ大波フラダンス 紺紗
- お花からウイंकもらうはなの店 紺紗
- 春名のみ球磨はすっぽり冷蔵庫 保義
- 植木市あれこれ買ってすっからかん 保義
- 春風に走る男女に旗を振る 正三
- 目の手術妻が弁天様に見え 正三
- 寒い空春は来ているはずなのに 佐津子
- 雪の中あなたは強い露のとう 佐津子

次回は平成二十四年四月五日(木)十四時から
予防医療センター二階の図書コーナーで開催致し
ます。院内設置の投稿箱にご投稿下さい

2月の勉強会報告

2月9日(木)第64回消化器カンファレンス

- 1.「腹腔鏡下衰退尾部切除を施行した腓神経内分
泌腫瘍の1例」
人吉総合病院 臨床研修医 黒田大介 先生
- 2.「クローン病の狭窄に対し、内視鏡的拡張術を施
行した1例」
人吉総合病院 消化器内科 西村淳 先生

2月22日 救急カンファレンス・救急医療研修会

- 『機械による巻き込み事案』
人吉下球磨消防組合 前田敬之 救急救命士
- 『救急からみた小児科』
人吉総合病院 小児科 並河紳 先生

第4回南九州県境地域
公的病院長懇談会



3月7日(水)に当
院、球磨郡公立多良
木病院、えびの市立
病院、鹿児島県立北
薩病院の公的4病院
代表者による懇談会を当院で行いました。医師の
減少や高齢の問題、スタッフの確保等、人吉・球磨、
大口、えびのの医療体制の問題について話し合わ
れました。各病院の状況や取り組みに関する情報
交換が行われました。これからも県を越えて連携
を深め、充実した医療体制が作れるよう努めてま
いります。

医療福祉連携室

施設見学



去る3月13日(火) 大分
県豊後大野市民病院健診セン
ターより、当院予防医療セン
ターへ施設見学にいらっしや
いました。

豊後大野市民病院健診セン
ター長の近藤圭一郎先生と合志先生がお知り合いだっ
たことから今回の運びとなりました。当日は近藤先生
はじめ、放射線技師1名、保健師3名、事務員2名の
職員の方がお見えになりました。簡単に施設をご覧
いた後、第1会議室にてセンター長より当センターの
健診概要を説明(写真)、昼食後は職種ごとに情報交換
をしました。

職員の皆様から「参考になりました。」と感想をいた
だきましたが、こちらこそ改めて健診業務の再確認を
させて頂いたようでした。

当センター職員も他施設に学ぶ取り組みをしようと
思いました。

予防医療センター 谷口 純子

新 任 紹 介



なかにし まや
中西 麻与 (5階東・看護師)

最終卒業校：希望が丘学園 鳳凰高等学校
衛生看護専攻科

特技：スポーツ(公式テニス・バレー)

好きな言葉：継続は力なり(小学卒業の時、
母から教えてもらった言葉です)

自分の性格：明るく、人と話すことが大好きです。笑顔を
忘れず、何事にも一生懸命です。

自分のコマーシャル：色々なことに沢山挑戦したいと思っ
ています。周りのスタッフ・患者様から、多くの刺激を受
け、日々看護に取り組んでいきたいと思ひます。とにかく
元気です。あと、かなりの心配性です。